

粒子線治療における 薬剤師の役割



薬剤科長 合田 泰志

平成 27 年 4 月に当センターに赴任してから 2 年が過ぎ、この間に薬剤師として多くの時間、多くの患者さんに関わらせて頂き貴重な経験をさせてもらっています。

当センターでは、年々、高齢の患者さんが治療を受けられるようになってきており、90 歳以上の方もめずらしくなくなってきました。平成 27 年の平均寿命は男性 80.8 歳、女性 87.1 歳であることを考えると高齢者が増えるのは当たり前のことですが、侵襲が少なく身体への負担が小さい、合併症がある患者さんにも適応しやすい粒子線治療の良さが多くの方に認知されるようになった証拠と考えて喜ばしく思っています。

一方、薬のことを考えると、入院されている 3 人から 4 人に 1 人は、10 種類以上の薬を使用しています。10 種類もの薬を“間違わず”“忘れず”、しかも“毎日”服用することはかなり難しいことだと思います。自分自身ができるかどうか自信がありません。特に錠剤は、同じような外観のものも多く、年齢に伴う視力低下によって判別が難しくなることが容易に想像できます。また、ジェネリック医薬品の普及もマイナス要因と考えられ、処方内容が同じでも医療機関や調剤薬局が変わると薬品名やメーカーが変わってしまい混乱する原因となっています。

平成 28 年度の診療報酬改定で「薬剤総合評価管理料」が新設され、処方を総合的に評価及び調整し薬剤数を削減した場合に算定できるようになりました。多くの薬剤を正しく薬を飲むことが難しい状況の中で、飲み忘れ・飲み間違いがあると危険な状態を引き起こす恐れがあることや多剤投与による有害事象の発現率の増加を考えると、本当に必要な薬だけを飲んで頂くことが、患者さんの利益になることは明らかです。高齢者への粒子線治療の適応が増加することを踏まえて、取り組んでいけなければならない課題です。

本稿の題名を「粒子線治療における薬剤師の役割」

としましたが、当センターの薬剤師の役割について「粒子線治療を安全に予定通り最後まで受けて頂くことを薬の面からサポートする」ことだと考えています。

具体的には、

- ①粒子線治療のターゲットの疾病に対する薬物治療支援
- ②粒子線治療のターゲット以外の疾病や疼痛に対する薬物療法支援
- ③粒子線治療による有害事象への対応
- ④粒子線と併用される抗がん剤治療への対応
- ⑤粒子線治療をよりよく行うための対応（体位を保つための疼痛管理、便秘・胃腸内ガスの対応）等が挙げられます。特に放射線単科である当センターにおいては、粒子線治療のターゲット以外の疾病への対応が期待されていますが、様々な疾患に対して日々進歩する薬物療法を理解し対応することの難しさを感じています。当センターの薬剤師は 2 名だけですが、「忙しさに振り回されない!」、「積極的に薬物治療に関わるぞ!」との思いを持ちつつ、日々慌ただしく過ごしています。

昨年の一部の領域のがんに対して粒子線治療の保険適応が認められました。粒子線治療を効果が期待できる患者さんに届けていくためには、適応拡大が不可欠です。そのための臨床試験が次々とスタートしており、微力ながら貢献できればと考えています。また、健康食品については、利用している患者さんが多く、成分の重複等の問題がみられることから、健康にマイナスにならないような利用方法のアドバイスや抗がん作用が期待される成分の客観的な情報の提供を行っていきたくと考えています。

